



私たちの声を、聞いてください

福島原発千葉訴訟第一陣 控訴審 第7回 口頭弁論期日

2020年2月28日(金) 14:00～

東京高等裁判所 101号法廷

ぜひ傍聴にお越しください

○今回の裁判のみどころ

裁判所は、当初、第7回口頭弁論期日に結審（審理の終結）する方針でした。しかし、新たな主張立証の機会を設けるため、裁判所は、第8回口頭弁論期日で結審する方針へ変更しました。

今回第7回口頭弁論期日において、弁護団は、①2002年8月の保安院対応は、「長期評価」に基づく津波対策を不要とするもので、著しく不合理であること、②国や東電の反論を踏まえ、やはり、重要機器室の水密化等により、本件事故を回避することが可能であったこと、③東電から提出された水野謙教授意見書に対する反論、をはじめとする様々な主張書面を提出いたします。

弁護団は、提出した主張書面のうち、上記①から③の要旨につき、前回同様、法廷で、ご説明いたします。

○当日のスケジュール(予定)

- 13:10 頃 抽選券交付開始@東京高裁 1階正門付近「2番交付所」
- 13:30 頃 抽選券交付締切,傍聴券交付@東京高裁 1階正門付近「2番交付所」
- 14:00 頃 控訴審第7回口頭弁論開始@東京高裁101号法廷
- 15:00 頃 報告集会@全日通霞が関ビル8階

○お問い合わせ:

原発被害救済千葉県弁護団

〒260-0013 千葉市中央区中央3-4-8コーノスビル5階 藤井・滝沢総合法律事務所内

TEL:043-222-1831 FAX:043-222-1832

<http://gbengo-chiba.com>

原発被害救済千葉県弁護団

検索

○集団訴訟第一陣 これまでの裁判の経緯

福島原発千葉訴訟第一陣（控訴審）は、福島第一原発事故によって千葉県に避難された17世帯43名の方々が、国と東京電力に対して損害賠償責任を求めている裁判です。

平成29年9月22日、千葉地方裁判所民事第3部は、国の責任を否定する判決を言い渡しました。その理由ですが、①国は福島第一原発の敷地高さを超える津波を予測することはできた、②しかし、津波が襲来するとの知見の精度・確度は必ずしも高いものではなく、国にも規制権限を行使する裁量があり、直ちに規制権限を行使すべきとまでは言えない、③(補足的に)仮に結果回避措置が実施されたとしても、事故を回避することが可能であったとは認めるに足りない、というものでした。

しかし、群馬、福島、京都、東京、横浜、松山の各地裁判決では、いずれも国の責任が認められており、もはや国の責任を認める流れは動かし難いものとなっています。

一方、千葉地裁は、東京電力に対して、中間指針等の賠償基準を上回る賠償を認め、そして、弁護団が求めていたふるさと喪失慰謝料も（名称はともかくとして）認めた上で、これらの賠償等を命じました。

しかし、認定した損害額は、原発被害者の被害実態に即した十分なものとは言い難いものです。

現在、福島原発千葉訴訟第一陣の審理は、千葉地裁から、東京高等裁判所第22民事部へ移りました。控訴審第2回裁判では、裁判長が交代しました。東京高裁第22民事部は、令和元年6月24日に現地進行協議を実施し、控訴審第4回裁判において、一審原告8名の尋問を実施しました。控訴審では、原発被害者の方々が受けた現実の被害の大きさについて、東京高等裁判所の裁判官にも十分理解していただけるよう、さらなる主張、立証を行い、慰謝料の増額とともに、必ず国の責任を認めさせ、被害の完全回復に向けて実態に即した全面的な賠償を実現させたいと考えます。

○今後の裁判の日程（予定）

控訴審第8回口頭弁論期日 未定

○裁判所・報告集会の場所

東京高等裁判所



〒100-8933 東京都千代田区霞が関1-1-4

TEL:03-3581-5411 (代表)

全日通霞が関ビル8階



〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番地3号 全日通霞が関ビル8階